



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

Global View

2022 年 3 月 1 日 Newsletter 第 70 号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

「初めての海外はヨルダン」 国際教育部 齊藤 亘（社会科/高校Ⅲ年 2 組担任）

みなさんにとって、初めての外国体験はどこの国でのどのようなものだったのでしょうか。初めてがこれからという人は、初海外が楽しみです。私が初めて外国に行ったのは、大学生の時の観光旅行でした。行先は、西アジアのヨルダン王国です。当時は（というか現在も）日本とヨルダンの直行便がなく、オランダ経由となりアムステルダムに 1 泊したため（オランダ航空の機内食のバターがすごくおいしかった）、正確には私の初海外はオランダなのですが、ここではヨルダンでの経験を紹介します。

ヨルダンは、イラク、サウジアラビア、イスラエル、シリアに囲まれ、国土の 95% を砂漠が占める国で、人口は当時で約 500 万人。原油がほぼ埋蔵されていないため外貨収入を観光などで得ている国です。国王はムハンマドや第 4 代カリフであるアリーの子孫に連なる家系で、国民から敬愛されています。私のヨルダン旅行は春休みの 3 月のことで、朝晩は冷え日中は暖かく、日本なら九州くらいの気温でした。10 日間の滞在で、首都アンマン市内の古代ローマ時代の競技場やイスラム寺院のモスクを訪れ、映画『インディ・ジョーズ』の舞台にもなったペトラ遺跡など国内各地の観光名所も見て回りました。

さて、私は旅行するにあたって、挨拶など簡単なアラビア語は勉強していったのですが、現地では基本的に英語でやりとりをしました。すると、アラブ人との会話において、ときどき“知らない単語”が出てくるのです。高校生くらいの少年「フォル。フォル！」私「？」。レストランの店員「ウォルテル！」私「？」。パン屋のおじさん「フォルティーン」、私「fourteen!？」。そうです、アラブ人は r を強く発音する余り、私が日本の学校で学んだ英語とは発音がだいぶ異なっていたのです。“ウォルテル”は“water”だったのです。一度法則が分かれば、あとは比較的スムーズにコミュニケーションがとれるようになったのですが、アラビア語訛りの英語が日本人の私にとって聞き取りづらかったように、日本語訛りの私の英語はアラブの人たちにとって、きっと聞き取りにくい英語だったことと思います。

そして、簡単な挨拶や数の数え方を勉強しておいた私は、隙あらば会話にアラビア語を使ってみました。するとどうでしょう。私「(英語で) これください」、おじさん「(英語で) 400 ディナールだよ」、私「ワーヒドゥ、イスナーン、サラサ、アルバア… (1, 2, 3, 4… と言いつつ紙幣を取り出す)」、目を丸くしたおじさん「You speak Arabic?」、私「シュワイヤ (少し)」、破顔一笑のおじさん「よし！これも持ってけ！(英語で)」。片言でもアラビア語を使うと相手の態度がすっかり打ち解けて、3 食ご馳走してもらえた日もありました。

10 日間の旅は、砂漠にそびえる城では、入場後に受付のおじさんが門に鍵をかけて昼食に行ってしまう 1 時間ほど城に閉じ込められたり、死海では、死海の湖水に手を浸したところ手の擦り傷がすごく腫れ上がって死海の塩分濃度にむしろ感動したり、ハイウェイでは砂漠の地平線に 2 重アーチの虹がかかったり、今でも鮮やかに記憶がよみがえります。

今日、コロナ禍において外国への渡航が制限されていますが、人類は対策を講じながら徐々に活動を再開させており、海外渡航も可能になりつつあります。また、ケガの功名でもあるのですが、コロナ禍においてオンライン環境の整備が進み、外国の人たちとの交流が容易になってきています。今年度、本校でもポーランドの日本語学校の生徒さんたちとのオンライン交流会が行われており、外国の人たちと交流する機会の敷居がぐっと低くなったことを実感しています。みなさんも、今後一層、外国の人と接する機会が増えるでしょう。その際、英語は便利なツールですが、相手の国の言語でコミュニケーションをとるとお互いの距離がぐっと近くなります。ベトナム語、台湾語、トルコ語、ポーランド語 etc、これからの出会いの際に、ぜひ挑戦してみてください。



3月の死海はどんより…それでもフランス人の家族が水着で浮かんでいました。死海は標高がマイナス395mで、地上で1番低い陸地です。



紅海に続くアカバ湾の夕暮れ。向かいがエジプトで右側がイスラエルです。



高校3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！

II コース（総合進学）

近藤 綾香 さん（上智大学法学部地球環境法学科入学予定）

私は環境問題に興味があり、上智大学の地球環境法学科を志望しました。進路が決定し、4月からこの学問を学んでいくにあたり、少しでも環境問題や法学の知識を増やそうと思い、WWFのワークショップに参加しました。オンラインで行われ、日本中の高校生とZOOMで繋がり、ディベートをするという企画でした。私たちは、実際に国際会議で行われている方法で、ひとつの答えを導き出すことに挑戦しました。意見の似たものの通しでグループになり、他のグループとディベートをした時、お互いに自分たちの意見を曲げることがなかったもので、なかなかひとつの答えを出すことができませんでした。このイベントに参加して、私たちが小規模で行ったディベートでさえも答えが出ないのなら、地球規模の環境問題を解決しようとしても、世界中の国が協力しなければそれを実現することは不可能だと思いました。そして、それがいかに難しいことなのか改めて実感しました。

大学では、"現在も多く環境法があるのにも関わらず、いまだに環境問題解決の兆しが見えない、その原因とは何か"を追求して行きたいです。また、なにか挑戦できることがあれば、積極的に挑戦し、有意義な大学生生活を送りたいです。



近藤さんは、硬式テニス同好会に所属し活躍していました。宮城県私立高等学校テニス学年別大会3年の部 シングルス 優勝、春季ジュニア宮城県大会 ダブルス 第3位 東北大会出場、

選ぶ！私たちの未来とエネルギー

12/19(土) 13:00~16:00

参加費無料

申込はこちら

お問い合わせ 03-3548-3000

プログラム概要

オリエンテーション → レクチャー → ワークショップ → 振り返り

レクチャー

環境の持続可能性に関する国際交渉に携わる経験者の講師（WWF）が、あなたに直接レクチャーして、聞かれます！

ワークショップ

プロのファシリテーター（宮本浩一）が、皆さんの議論の進行をサポート！

自分の意見を言うだけでなく、相手の意見も尊重する。

（※）宮本浩一は、WWF日本代表、環境問題の専門家、WWF日本代表の代表者です。

講師について

スエーデンのストックホルムに生まれ、現在は世界100か国以上で活動を行う環境保護活動家です。WWF日本代表、環境問題の専門家、WWF日本代表の代表者です。

WWF（世界自然保護基金）

ジャパンは、2021年9月22日、50周年を迎えました。WWFは、危機にある自然や野生生物の保全に取り組みながら、現在の環境保全の基礎となる「サステナブル（持続可能）」な社会の在り方を打ち出し、その実現を推し進めています。昨年度は、校内でWWF主催のワークショップを実施しました。

他の団体でも中高生対象のイベントを実施していますので調べてみてください。

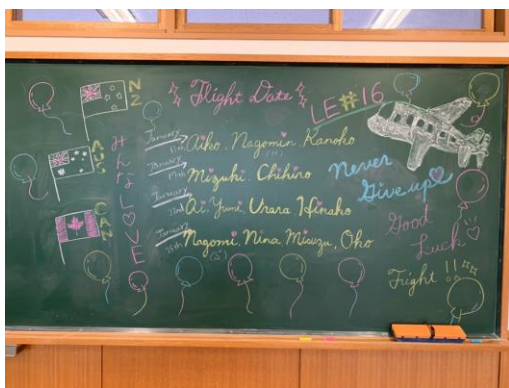
LE コース（英語・留学）

🌸 山本 佳乃子 さん（横浜市立大学 国際教養学部 国際教養学科 入学予定）

振り返ってみると、私の1年間の留学は、多くの人との出会いやつながりに支えられたものだと感じます。多文化共生で知られているオーストラリアで交換留学を経験し、生まれ持った文化や価値観が違う多くの人と関わることができ、多角的な視点で物事を考えること、そして互いを尊重し合い、理解しようと歩み寄る姿勢の大切さを学ぶことができました。

卒業後、私は大学で都市学を学びたいと考えています。私のこの学園での生活のように、都市も人と人とのつながりでできているものです。これからも1つ1つの出会いやそれによって得られる機会を無駄にせず、精いっぱい学び続け、自身の学びを地元還元できる人になれるよう努力します。

支えてくださった先生方、家族、そして、互いに刺激を与え、いつも1番そばにいてくれたLEコースの同級生、先輩方、後輩たち、また、私の学園生活に関わっていただいた全ての方々にとっても感謝しています。6年間本当にありがとうございました。



それぞれが1年間オーストラリア・
ニュージーランド・カナダへ

LE#16らしさが発揮できた体育祭

帰国前に友達
サプライズで
してくれたお別れ
パーティー

LS コース（特別進学）

🌸 三井 奏奈 さん（東京外国語大学 言語文化学部 イタリア語学科 入学予定）

こんにちは。私は海外の文化が好きで、ずっと英語以外の言語を学びたいと思っていました。大学ではイタリア語を専攻するので4月からの大学生活が今からとても楽しみです。また、言語の音にも興味を持っています。コサ語という言葉を知っていますか？この言語はクリック音という舌打ちのような発音が特徴的です。インターネットにも動画が載っていて、凄く面白いので是非聞いてみて下さい。私が進学する大学にはコサ語を専門とする先生がいらっしゃるのので、発音についても学びたいと思っています。このように言語について興味を持った契機は高校の文芸部での活動でした。俳句や小説を創作する中で日本語の繊細さに触れ、本格的に言語について学びたい！と感じました。身近な活動が意外にもグローバルな視点に結びつくものです。まだまだ留学などは厳しい状況ではありますが、大学でも楽しみながら学んでいきたいと思っています。



文芸部の活動の様子